

「主体的・対話的で
深い学び」を
実装する
授業デザイン

英語

自己調整しながら学ぶ授業を 通じて、生徒に対話力や 自己表現力を育む

静岡県・私立東海大学付属静岡翔洋高校

田中大成^{たいせい}



たなか・たいせい
同校に赴任して7年目。英語科主任。3学年担任。

学校概要

- ◎設立 1999（平成11）年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約420人
- ◎2025年度卒業生進路実績 国公立大は、東京学芸大、山梨大、静岡大、岡山大、静岡県立大などに18人が合格。私立大は、文教大、順天堂大、成蹊大、専修大、玉川大、東海大、東京理科大学、立命館大などに延べ371人が合格。短大・専門学校進学75人。就職17人。

私が目指している授業

英語学習を通じて人生を豊かにし、価値観を広げてほしい

本校の生徒は必ずしも英語が得意であるとは限りません。優れた翻訳機がある中で「英語を学ぶ必要はあるのだろうか」と思う生徒もいます。そこで私はいつも生徒に、「英語を知ること、日々の生活が少し面白くなったら素敵だよ」と伝えていきます。例えば、街中の看板や漫画などで英語を目にした時に、「授業で学んだ表現だ！」「フライドチキンは『揚げられたチキン』だから過去分詞が使われているんだ！」などと気づくことで、物事の見方・考え方は一歩深まります。そうした、日常を豊かにする教養としての英

語力を習得してほしいと考えています。

加えて、世界の文化や価値観を理解し、様々な人々と対話をするためにも英語を学んでほしいと思っています。私は大学時代に多文化が共生するカナダのトロントに1年間留学しました。そこで自分には理解できない問題に直面しました。その時、「カナダ人ならどう考えるか」と英語の思考回路で物事を捉えるようにしたところ、次第に自分の考えに自信が持て、論理的に対話できるようになりました。今後、AIがどれだけ進化しても人と人との対話はなくなり、むしろ価値観の多様化などによってその重要性は増すと私は考えています。

そのため私は、英語を「それを通して思考し、対話する教科」と位置づけ、授業づくりに取り組んでいます。

私の授業実践の例

自分で立てた計画に基づいて学び、振り返りでは自身の成長を記録

私は授業に自己調整学習を取り入れています。具体的には、私が作成したワークシートとラーニングマップ（P.3図）を基に、生徒は自分で計画を立てて学習を進めます。ワークシートは、Lessonを貫く問い（Big Question）と、それに答えるための段階的な問い（STEP）で構成しています。生徒は各STEPについて取り組むか、その学習計画をラーニングマップに記入してから学習を開始します。

各STEPの終了時には、難しかった点や他者との対話を通じた自身の変化などについて振り返り、達成度の自己評



誰とどう学ぶのかは生徒が決める。対話が活性化するように、グループで学ぶ場合、メンバーは4人以内。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

単元デザイン 「Media Literacy」

単元の概要 **【対象】** 3年生 **【教科・科目】** 英語・論理表現Ⅱ **【単元目標】** ・ SNS上の情報がどのように広がり、どのような影響を生むのかを本文から読み取ることができる。・ 形容詞が名詞にどのような情報や印象を加えているかを分析できる。
・ SNSに情報を投稿する時の注意点について、理由や具体例を含めて英語で表現できる。

時数	学習目標	授業内容	評価方法
1	SNS上の情報に対する自分の判断基準を自覚し、他者との比較を通して自分の考えを見直すことができる。	生徒は、Lesson を貫く Big Question と STEP 1 ～ 7 の内容を確認し、授業が5コマであることを踏まえて、各 STEP にいつまでに取り組むか、計画を立て、ラーニングマップ (P.3 図) に日付を記入する。そして、個人やグループで各 STEP に取り組む。各 STEP の終了後は、ラーニングマップに「新たに分かったこと」などを記入し、端末で撮影して教師に提出する。 Big Question と STEP の内容は以下の通り。 Big Question ：SNSで見た情報を私たちはどのように判断し、どのように扱うべきだろうか。	各 STEP の解答を見取り、形成的評価を行う。 知識・技能 ：本文内容の並べ替え活動や因果関係の整理を通して、出来事の流れを理解し、情報拡散のプロセスを捉えられているか。形容詞の働きに関する分析や理由説明、対話などから、文法事項を“意味”や“表現意図”と結びつけて理解できているか。
2	Lesson の本文の出来事の因果関係を整理し、情報が広がるプロセスを捉えることができる。	STEP1 ：SNS上の未確認情報に関する Situation を読み、「自分ならどう行動するか」「なぜそう考えるか」を整理する。他者と考えを共有し、その違いや共通点を見いだすことで、自分の判断基準を見直す。 STEP2 ：Lesson の本文を読み、「うわさを聞く」「SNSへ投稿する」「情報が広がる」「人が集まる」「混乱が起こる」といった出来事を時系列で整理する。情報の拡散が社会へ与える影響を確認する。	思考・判断・表現 ：本文の役割整理や理由説明を通して、論理構成を分析し、筆者の主張を根拠をもって説明できているか。理由・具体例・アドバイスをいながら、自分の考えを論理的に表現した英文を書けているか。
3	Lesson の本文がどのような論理構成によって読み手を納得させているかを分析できる。	STEP3 ：本文を「危険性 → 具体例 → 結果 → 結論」の構成で整理する。各部分の役割を確認し、筆者がどのように読み手を納得させようとしているかを分析する。また、ディスコースマーカ―やパラグラフ構成に注目させて、「なぜ最初と最後で同じ内容を述べているのか」など、論理展開の意図について考察させる。 STEP4 ：本文の「false information」「unexpected results」「famous singer」「frustrated people」の表現を比較して、形容詞がどのような情報や印象を加えているのかを分析する。単なる文法知識ではなく、「なぜその形容詞を使ったのか」「その結果、読み手はどのように感じるのか」を考察させる。	主体的に学習に取り組む態度 ：他者との対話の状況、ラーニングマップの記述などから、自分の考えを持ち、他者との比較を通して考えを更新しようとしているかを見取る。ラーニングマップの記述では、自分の学習プロセスを自覚し、改善しようとしている姿勢も見取り、評価する。
4	形容詞が読み手の受け取り方や印象に与える影響を分析し、筆者の表現意図を考察できる。	STEP5 ：本文の内容と自分の経験を結びつけながら、誤情報が広がる背景や投稿者の責任について考察する。他者と意見を共有し、他者の視点を踏まえて自分の考えを深める。 STEP6 ：STEP7 の準備として、「Main Message」「Reason」「Example」「Advice」を整理する。	総括的評価については、知識・技能は単語テストと定期考査、思考・判断・表現は定期考査とパフォーマンス課題、主体的に学習に取り組む態度はラーニングマップを主な評価材料とする。
5	SNS上の情報拡散が社会へ与える影響を多面的に捉え、自分の考えを論理的に表現できる。	STEP7 ：SNSに投稿する際の注意点について、50 語程度の英文を書く。書いた英文はグループ内でレビューを行い、他者の表現から学び、自分の英文をよりよい表現にする。 全 STEP の終了後、Lesson 全体を振り返り、「話し合いによって更新された考え」「形容詞は名詞にどのような情報や印象を与えていたか」「次のレッスンで意識したいこと」などを記入し、ワークシートとラーニングマップを教師に提出する。早く提出した生徒には発展問題を課す。	

学習目標は、進捗の目安として各コマに割りあてた。※学校資料を基に編集部で作成。

価値、実施日をラーニングマップに記入します。そして全 STEP 終了後、Lesson 前後での自身の変化や次の Lesson で意識したいことなどを記入し、ワークシートとラーニングマップを教師に提出します。自分の計画の進捗に遅れが生じた場合は家庭学習などで調整し、提出日は守るよう、生徒に伝えています。そのため、授業では一律の宿題は出していません。
授業中、私は教室内を回り、生徒の進捗を把握して適宜支援します。つまづいている生徒を手厚く支援することはもちろん、例えば外国語学部志望の生徒には英語に関する踏み込んだ話もします。また、多くの生徒がつまづいている箇所があれば、全体に向けた解説も行います。
ワークシートには、生徒が物事を深く考え、他者との対話が生じるような工夫を施しています。例えば、教科書の素材文に関連する社会課題や日常生活について考える問 (Big Question) を設定しています。[Media Literacy] の Lesson では、[SNSで見た情報を私たちはどのように判断し、どのように扱うべきだろうか] を Big Question として設定しました。そしてその答えを英語で書くという最後の STEP に向けて、各 STEP では形容詞の用法を学ぶとともに、自分の考えを論理的に組み立てることに取り組みます (単元デザイン参照)。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

図 ラーニングマップ 記載項目と生徒の記入例 (抜粋)

■表面：各 STEP の学びの記録

単元目標				単元目標の振り返り (実施後、達成できたか)			
単元目標				単元目標の振り返り：実施後、達成できたか			
①	SNS上の情報がどのように広がり、どのような影響を生むのかを本文から読み取ることができる。			最終的に、論理的にかつ読者を意識して書かれていることが分かった。			
②	形容詞が名詞にどのような情報に加え、どのような印象を与えるのかを分析できる。			形容詞を使うことによって、名詞に与えられる印象が変わることや、その後の話の展開に対しての印象も変わってくるということが分かった。			
③	SNSに情報を投稿するときの注意点について、理由や具体例を含めて英語で表現できる。			そこまでできていない。良くて、とりあえず文章を組み立てるレベルで止まっている。			
STEP	Small Goal	自分の 締切	実施 提出	各STEPの振り返り			
				新たに分かったこと	つまづいたこと・難しかったこと	他者との比較で変わったこと	達成度
1	SNS上の情報に対する自分の判断基準を自覚し、他者との比較を通して自分の考えを見直すことができる。	6/5	6/5	・「expired」…期限が切れる ・「ingredients」…材料 ・「disgusting」…とんでもない	「Xでの投稿」が単語を語彙しないと、別の記事が頭の中でできあがっていた。 自分の意見を深掘りすること。	自分の意見を深掘りすることができた。 「興味ない」→「その店に行かない」 →「本当か分からないから」	◎・○・△
STEPのSmall Goal 自分の実施締切提出				新たに分かったこと	つまづいたこと・難しかったこと	他者との比較で変わったこと	達成度
各STEPの振り返り							

■裏面：Lesson 全体の振り返り

Lesson 4 総合振り返り	
① このLessonで最も大きかった学び	・話し合いって、意外と楽しいということ。 ・SNSを使っていくことについて考える時は、「想像力を働かせて考える」などの抽象的な方法から、「辞ROM」や「5分スマホ」置いて、体を動かして、頭をスッキリさせてから考えてみる」など、具体的に気づいて 行った方が良かったこと。
② 形容詞は、名詞にどのような情報や印象を加えていましたか。	今回のLessonのように、次の展開を予想させたり、ランクションは自分で次の主 張に興味を持たせたりする働きがあった。 どこからどこまでの程度があるその名詞の意の程度の加減を示している。
③ 「情報を正しく扱うこと」と「言葉を正しく選ぶこと」は、どのようにつながっていると思いますか。	「相手のこと」について考えているか、想像できているかどうかということ。 情報の真意か、投稿者のその時の感情によってねじ曲がっていないかということ。 ①自己を上げるため、他者をおとしめるなどの不適切な感情が伴うことによって、言葉選びをいつ取っても意味が変わってくる

裏面の項目は、Lesson 全体の振り返りとして、上記の項目のほかに、「Collaboration Log ①他者の考えで「なるほど」と思ったこと、②自分と他者の考えが違った場面、③話し合いによって更新された考え」「Before → After 【今の私】 Lesson 前の私は / Lesson 後の私は」「次のLessonで意識したいこと」がある。

ラーニングマップはB4判で、表裏から成る。 ※学校資料を基に編集部で作成。

お
勧
め
の
分
享

管
理
職

教
務
担
当

進
路
担
当

担
任

各STEPの問いは、できるだけ生徒

の意見が分かれるようなものにしていま
す。答えが曖昧な問いだともやややる
と思いますが、だからこそ周りに意見を
求めようとするでしょうし、他者の考え
と違いがある場合は1つの答えに収束さ
せようとしています。そうしたことを通じて
対話力は磨かれていくものだと私は考え
ています。グループ内で答えが異なる時
は、私がそのグループに声をかけて答え
が異なっていることに気づかせ、対話を
促します。そうして生徒は他者の考えを
踏まえ、自分の考えを更新していきます。
ラーニングマップには、生徒が自身の
変化を客観的に捉えられるよう、振り返
りの視点を示し、「Lesson前後で考えが
変わった点や、こうすればもっと深く学
べたと思う点を書く」と、繰り返し伝え
ています。そうした振り返りによって学
びの自己調整や努力の跡が可視化される
ため、それらを見取って「主体的に学習に
取り組む態度」の評価材料にするととも
に、私の授業改善にも活用しています。

学習評価では目標と指導と評価の一体
化を図るため、各学期の到達目標を基に
定期考査の問題をあらかじめ作成し、そ
の問題を基にワークシートを作成してい
ます。例えば、1学期の中間考査前まで
の授業で使うワークシートは春季休業中
に作成し、中間考査終了時には期末考査

前までのワークシートを作成します。そ
れにより、中間考査前までの授業の反省
を踏まえて、期末考査前までのワーク
シートを作成することができるようのです。

成果と展望

どの学力層の生徒も自律して 学び、自身の変化を言語化

1 年次から自己調整学習を取り入れた
授業を受けてきた3年生は、最初こそ「答
えを教えてほしい」などと受け身がちで
したが、今では協働して主体的に学習に
取り組んでいます。ラーニングマップで
は、つまづいた要因や次の改善点もよく
書けています。英語力が向上しているこ
とは定期考査の得点にも表れており、学
力層を問わず、どの生徒も自律して学
べるのだということを実感しています。

今後の課題は、生徒の見取りと生徒へ
の声かけの質の向上です。例えば、授業
中の対話が学習内容から脱線している
ことに私が気づいた際には、頭ごなし
に対話を止めさせるのではなく、私が対
話に加わって軌道修正することや、生徒
の沈黙が熟考なのか思考停止なのかを見
取り、適切なタイミングで声をかけると
いった、支援の技術・力量の向上に今後
も一層努めていきたいと思っています。